

第 99 回女川原子力発電所環境調査測定技術会会議録

開催日時：平成 17 年 8 月 5 日 午後 1 時 30 分から

開催場所：宮城県原子力防災対策センター 全体会議場

出席委員数：19 人

会議内容：

1 開会

司会： ただ今から、第 99 回女川原子力発電所環境調査測定技術会を開催いたします。

なお、本日の会議では、夏場の省エネルギー対策の一環としてノーネクタイでの会議とさせていただきますので、御了承願います。

司会： 会議に先立ちまして、本会議には委員数 28 名のところ、19 名の御出席をいただいておりますので、本会は有効に成立しておりますことを報告いたします。

司会： 開会にあたり、宮城県環境生活部高橋次長からあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

(高橋環境生活部次長あいさつ)

3 新委員の紹介

司会： ここで、本技術会に今回よりお入り頂いた委員を御紹介いたします。

本年 7 月 1 日の人事異動及び組織改編により同日付けで委員に就任された、東北電力(株)原子力部原子力運営課長の 大友宏 委員です。

以上でございます。

司会： それでは、高橋副会長に議長をお願いし、会議に入らせていただきます。

4 議事

議長： それでは、次第に基づき議事に入ります。

評価事項の「イ」平成 17 年度第 1 四半期の「環境放射能調査結果」について説明願います。

(1) 評価事項

イ 女川原子力発電所環境放射能調査結果(平成 17 年度第 1 四半期報告)について

(佐藤委員から平成 17 年度第 1 四半期の環境放射能調査結果について説明)

議長： ただ今の説明につきまして、御意見、御質問がございましたらお伺いいたします。

なお、発言の際は、お手元のマイクのスイッチを入れて、口元まで引き寄せてお話し下さるようお願いいたします。

(なし)

議長： ないようでしたら、次の議題、平成 17 年度第 1 四半期の「温排水調査結果」について説明願います。

ロ 女川原子力発電所温排水調査結果(平成 17 年度第 1 四半期報告)について

(五十嵐委員から平成 17 年度第 1 四半期の温排水調査結果について説明)

(〃 から 1 月 1 日から 2 月 15 日までの、寄磯(St.11)の海水温度欠測の理由等について補足説明)

議長： ただ今の説明につきまして、御意見、御質問がございましたらお伺いいたします。泉委員いかがでしょうか。

泉委員： 寄磯の海水温度欠測について、原因ははっきりとはわからないということですか。

五十嵐委員： はい。

関根委員： 今の関連ですが、バックアップデータと比較して、もとのデータがおかしいと判断した根拠は何ですか。バックアップデータはどういうものですか。

五十嵐委員： モニタリングそのものの趣旨が、毎日現場の方が水温を測定して、おかしい点などがあ

れば直ちに判断できるという、地元の人が調べることに意義があるということでやっております。バックアップの方は、毎日の測定ではなく、1カ月間放置して測定しておりますので、データそのものは毎日入ってきません。

関根委員： 温度計は同じものを使っているのですか。

五十嵐委員： 温度計は違います。

関根委員： 違うものを使って並行して測定を行ったということになるのですか。

五十嵐委員： 2月中旬以降については、その後も欠測扱いにならないよう、並行して設置して測定を行っております。

関根委員： わかりました。

尾定委員： 測定を依頼している人を変えたということですがけれども、このままで行くと、また同じようなことが起こる可能性もあるのではないのでしょうか。それより、直ぐにデータを県がとれば、おかしな場合は判断が出来るのではないのでしょうか。

五十嵐委員： 例えば、一番いいのはデータをとってすぐにその結果が水産研究開発センターへ電送されれば、その数値がわかりますので、チェックはできると思います。今行っている方式は自記式ですので、数値は直ぐには確認できません。また、そもそもこのモニタリングのシステムは、現地の方が自分たちで調べて、それが異常がないのかどうかということを確認してもらうことも考慮してのシステムですので、現地の人にやって頂くことが必要だと思います。ただし、今回のように、正確な数値がとれないときのことを考えて、並行して測定を行う今回のような措置を講じました。

長谷川委員： それでしたら、その日に調べたものを県にすぐに届けるようにすればいいのではないのでしょうか。測定方法については、原則はいいのですが、そうしないと、一般の県民から見て歯切れの悪いような印象を受けます。

議長： それでは、この点については適切に実施するようにしてください。

ほかにないようでしたら、次のハの「女川原子力発電所環境放射能調査結果（平成16年度報告）について」、説明をお願いします。

ハ 女川原子力発電所環境放射能調査結果(平成16年度報告)について

(佐藤委員から平成16年度の環境放射能調査結果について説明)

(〃 平成16年度第1四半期報告及び第2四半期報告データの一部訂正について補足説明)

関根委員： 環境試料の放射性核種濃度の推移についてですが、陸土については寄磯のみデータをお持ちなのでしょうか。

事務局： データは塚浜につきましてもございます。平成11年ぐらいから観測をやめておりますけれども、それまでの間の十数年ぐらいのデータはあります。

関根委員： それでは、陸土の性質よっての比較は可能なのでしょうか。

事務局： はい。現に比較したことはあります。

関根委員： 長年のデータですから、ぜひいろいろな角度から比較検討してみてください。先ほど海水の方は、アラメとかイガイについて説明がありましたがチェルノブイリ以降についてグラフに表せば、傾向が説明できるかと思えます。つまり海水起源だというようなことを議論ができるかと思えますので、ぜひ解析して見ていただきたいと思えます。

議長： そのほかございませんでしょうか。

なければ、本日の議題でありますイ、ロ、ハにつきましては、本日の技術会でご了承いただいたものということにしてよろしいでしょうか。

木村委員： 飯子浜局の風向風速データの欠測について申し上げます。

長期間の欠測ということで、いろいろな意味で考え直さなければいけない問題があると思えます。この地域は非常に複雑な地形であり、一たん観測を始めてしまいますと、観測データの正否の判断が難しくなります。色々事情があったにせよ測定器の設置後の確認が、やはり不十分であったと思えます。ですから、今後はこういうことのないように、難しいとはいってももう少しできることはあるはずですので、細部を検討してしていただいて、今後改善していただきたいと思います。

議長： ただいまのご意見について、よろしいですか。

佐藤委員： 全くそのとおりだと考えております。

議長： 委員の皆さんのご意見もそのとおりかと思えます。確かに納入業者の配線が間違っていたとはいえ、それを適切に見抜いて管理しなければならないということで、今後は注意していただくということでまとめてさせていただきます。

それでは、イ、ロ、ハの3件については、基本的に評価いただいたということでよろしゅうございますでしょうか。

(異議なし)

議長： それでは、ご了承いただいたものといたします。

次に、報告事項に移ります。イの「女川原子力発電所の状況について」、説明をお願いします。

(2) 報告事項

イ 女川原子力発電所の状況について

(大友委員から女川原子力発電所の状況について説明)

議長： ただ今の説明につきまして、御意見、御質問がございましたらお伺いいたします。

関根委員： 最後の3号機の件なんですけれども、核分裂生成物が見つかったということですが、それぞれの場所でどういう核種がどの程度見つかったかについてお聞きしたいと思います。

横式委員： 排気筒からは何も出ておりません。10ページの絵を見ていただくとわかるのですが、こちらの方に排気筒放射線モニタとあります。通常は大体7カウント前後の値を示すもので、自然変動などで推移するのですが、こちらの方は普段と全く変わりませんでした。活性炭式希ガスホールドアップ塔の出口放射線モニタにつきましては、普段は5カウントぐらいを示しております。これにつきまして、クリプトン85というものがあまして、通常は余りにも少なく検出はできないのですが、漏えいがある箇所の調査を行ったとき、制御棒を入れたり、引いたりしましてモニタの指示の変化を見ましたら、一時的に若干クリプトン85が出てきているのかと思われました。カウントとしては、5~6カウントぐらい少し上がっているということではございました。ただ、排気筒のモニタとしては、全く変動はありませんでした。

除湿冷却器出口放射線モニタにつきましては、核種の分析ができて、希ガス類、キセノンなどが検出されております。あと、ヨウ素につきましては、原子炉の原子炉水を分析すればわかりますので、検出されておりますけれども、制御棒を挿入することによりまして、ほとんど最初の値に近い状態になっております。

関根委員： 見つかったのは今の状況ですか。

横式委員： 今の状況ではありません。

関根委員： 見つけられたときはどうでしたか。

横式委員： 見つけたときには、キセノンなど幾つかの核種がありました。

関根委員： それはどこですか。

横式委員： 7月2日の時点ですが、検出器としては一番最初の場所のところで、数値の上昇が検出されたときです。

関根委員： いずれにしろ外部に排出される最後部のところでは検出されていないということですか。

横式委員： はい。ホールドアップ塔がありますので、ここから出ていくということはありません。

大友委員： サンプルングについては、試料を採取して測定を行っております。

関根委員： わかりました。

長谷川委員： 炉水モニタはサンプルングでどの程度やっているのか。連続ではないわけですか。

横式委員： 連続ではございません。

長谷川委員： 頻度はどの程度ですか。

横式委員： 1週間に1回だったんですけれども、今は1日に1回見しております。

長谷川委員： それは、ある程度数値が出ているわけですね。

横式委員： 今はほとんど下がっております。

議長： よろしいでしょうか。

それでは、次の報告事項に移ります。

報告事項「ロ」の「平成 17 年度原子力防災訓練について」説明願います。

ロ 平成 17 年度原子力防災訓練の概要について

(事務局から平成 17 年度原子力防災訓練の概要について説明)

議長： ただ今の説明につきまして、御意見、御質問がございましたらお伺いいたします。

(なし)

議長： 御意見、御質問はございませんか。

なければ、他に報告する事項などありましたらお願いします。

(なし)

議長： 他にないようですので、報告事項を終了といたします。その他の事項として、事務局から何かありますか。

事務局： 次回の技術会の開催日を、決めさせていただきます。3 か月後の平成 17 年 11 月 11 日の金曜日、仙台市内で開催とさせていただきますと存じます。

議長： ただ今事務局から説明がありましたが、次回の技術会を平成 17 年 11 月 11 日の金曜日、仙台市内で開催することよろしいでしょうか。

(異議なし)

議長： それでは、次回の技術会は平成 17 年 11 月 11 日の金曜日に仙台市内で開催しますので、よろしくお願いたします。

議長： その他、何か、御意見、御質問等はございませんでしょうか。

(なし)

議長： それでは、これで、本日の議事を終了とさせていただきます、議長の職を解かせていただきます。

5 閉会

司会： それでは、以上をもちまして、第 99 回女川原子力発電所環境調査測定技術会を終了といたします。

どうも、ありがとうございました。